
本邦集中治療室における早期リハビリテーション実施に関する横断的研究

◆研究の目的と概要◆

本邦 ICU での早期リハビリテーションの現状、および ABCDEF バンドル(鎮静薬を日々止めて意識が良いか確認すること、人工呼吸器を必要とするか日々の確認すること、適切な鎮静薬や痛み止めの選択、せん妄が起っていないか確認し対応すること、治療開始からできるだけ早く機能回復トレーニングや動作練習をすること、家族の力の活用・促進)の実施状況と早期リハビリテーションの関連を明らかにすることを目的としています。

◆対象となる患者さん◆

2017年9月から2017年10月における無作為に抽出した平日3日間において、データ収集日の午前8:00に当院ICUに入室している成人患者さん。

◆研究に使用される情報・試料◆

・診療情報：性別、年齢、身長、体重、ICU入室原因疾患名、手術の有無、併存疾患、入院前のADL状況、使用中の薬剤、血圧や脈拍などのバイタルサイン、血液検査データ、人工呼吸器管理中の場合は呼吸器のモード、せん妄の有無、筋力、リハビリテーション実施状況、リハビリテーション実施後による有害事象の有無

◆研究方法◆

上記情報を、患者さんの氏名などがわからないようにしたうえで、下記機関に対して電子的配信で提供します。

◆主な共同研究機関及び研究責任者◆

広島大学病院診療支援部リハビリテーション部門・理学療法士 對東俊介氏が主体となって実施しており、全国20施設が参加しています。

主体のホームページ

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/system/files/74011/E675.pdf>

-
- * 研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も患者さんを特定できる情報は利用しません。
 - * 本研究に関するお問い合わせや、カルテ情報の利用についてご了承いただけない場合、以下の問い合わせ先までメールでご連絡ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院

救急科 研究責任者 栗山 明

E-mail: kenkyu★kchnet.or.jp (臨床研究センター)

(★を@に変換して使用してください)

この研究課題で利用する残余検体・診療情報等の利用については、医の倫理委員会によって「社会的に重要性が高い研究である」等の特段の理由が認められ、実施についての承認が得られています。

※【問い合わせ先】では、次の事項について受け付けています。

- 研究計画書および研究の方法に関する資料の閲覧（又は入手）ならびにその方法
（他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護等に支障がない範囲内に限られます。）
- 研究対象者の個人情報についての開示およびその手続
- 研究対象者の個人情報についての利用目的の通知
- 研究対象者の個人情報の開示、訂正等、利用停止等について、請求に応じられない場合にはその理由の説明